

- 1 報告地区 : 日高地区
 2 事例報告学校名 : 浦河町立浦河小学校
 3 報告者 : 校長 野崎 充
 4 キーワード : ふるさとキャリア教育を通して

～ 伝え合う力・向上する力・創造する力を養う～

1. はじめに

本校の学校課題である、児童が「自分から進んで取り組むこと・自尊感情を高めていくこと」ができるよう、ふるさとキャリア教育の実践を推進する。

2. ふるさとキャリア教育で目指す児童像

将来の夢を大きく広げ自己実現の方向を考えていける児童

3. ふるさとキャリア教育の目標

- 自己及び他者への積極的関心の形成・発展
- 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上
- 夢や希望、憧れる自己のイメージの獲得
- 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成

4. 目標及び身につけさせたい力

	目 標	伝え合う力 (人間関係・社会形成能力)	向上する力 (自己理解・自己管理能力)	創造する力 (キャリアプランニング能力)
低 学 年	友達づくりを中心に自己及び他者への関心を高め、自己の役割や身の回りの仕事に対し意欲的に関わろうとする態度を養う。	・友だちの気持ちを考える。 ・友だちと仲良く遊び、助け合う。 ・返事やあいさつをしつかりする。	・自分の好きなことがいえる。 ・自分の良いところを見つけ自信をもつ。 ・してよいことと悪いことがあることが分かる。	・身近で働く人の様子が分かり、興味・関心をもつ。 ・お世話になった人々に感謝する。 ・自分の好きなもの、大切なものをもつ。
中 学 年	自己のよさや自分の伸びを見つけることによって自己肯定感を育てるとともに、友達と協力して様々な体験活動を行おうとする態度を養う。	・友達の気持ちや考えを理解しようとする。 ・友達と協力して学習や活動に取り組む。 ・友だちのよいところを認め励まし合う	・自分の意見や気持ちを分かりやすく表現する。 ・自分の持ち味を発揮する。 ・してはいけないことが分かり自制する。	・多くの職業や生き方があることを知り、働くことの楽しさが分かる。 ・自分の生活を支えている人に感謝する ・将来の夢や希望をもつ。
高 学 年	自己の個性を理解し、夢に向かって自分の能力を高めようとする意欲や態度を育てる。	・思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え行動しようとする。 ・自分の持ち味を発揮しながら友達と協力して学習や活動に取り組む。	・社会と自己の関わりから自分の特徴に気付き、自分らしさや憧れる生き方について考える。 ・規範意識を持ち、社会におけるルールや相手との約束を守るなど信頼される行動をとろうとする。	・夢や目標に向かってあきらめずに努力することの大切さが分かる。 ・自分を支えてくれる人々の存在に感謝しながら、将来のことを考える大切さが分かる。

5. 活動例『浦河町をプロデュース』プロジェクト

○ 活動のねらい

6年総合的な学習の時間「知っ得ヒューマン」において、浦河町の良さを再発見し、その良さを地域、外部の人に向けて発信する。こうして町の人と関わる中で、自分の故郷を想い、自分の役割を考え、自分らしい生き方を見つけるきっかけとする。

○ 活動の流れ

4月～5月

浦河町観光協会の方に、浦河町の魅力について語っていただき、学習の流れを共有する。

6月（浦ふえすにて出店練習）

テーマを決め、浦河町のオンリーワンを探すために、それぞれの達人さんのところに取材に出かける。

8月（港まつりでの出店）

浦小商店オープン！約300点の商品が完売！

9月～12月

おすすめマップを作ろう！

2月

浦河町観光協会のサイトにアップする。

○ 活動の内容

- ・ 探そう
浦河町の良さ、オンリーワンって何だろう？
（すずあかねイチゴ・昆布・ツブなど）
- ・ 伝えよう
浦河町の良さを発信するには？
（パンフレットを作製）
- ・ やってみよう
伝えたいことを形にして
（浦ふえす・港まつりでの出店）

※ これまで町内に住んでいても気づけなかった町の魅力をあらためて再発見することができた。観光協会職員やデザイナー、その他その道のプロに直接教えてもらったり、取材させていただいたりしたことにより、子どもたちの職業観に良い刺激を与えることができた。

6. おわりに

ふるさとキャリア教育は、子どもの自分づくり・人生づくりのサポートであると言えます。一人一人の子どもが、これから自分はどうな人生を歩いていくのか、それを生きる力としての具体的な姿として、日々の教育活動の全てにおいて関連付けていくのが、本校で目指す「ふるさとキャリア教育」です。

そのためには、キャリア教育の全体計画に「発達段階の応じた目標及びつきたい力」をどの段階でどんな力を付けていくかを明確にし、共通理解の下、進めていくことが肝要となります。

上記の例は、6年間のキャリア教育の集大成としての総合的な時間を中心とした活動の実例ですが、教科等で培う力との関連を明確にしたクロスカリキュラムの構築等、まだまだ課題が多くある状況です。

